

司 会 ①倉知兄 ②佐々木兄 ③中村洋兄(加藤姉)
祈 禱
奏 楽

賛 美 聖歌229番「驚くばかりの」
(御名を掲げて)(父なるわが神)

主の祈り

聖 書 ①④ コリント人への第一の手紙10章11～13節 (P306)
②③ マタイによる福音書18章3節 (P33)

音 楽 ① 宮田四郎兄(V)
②③ 関真哉兄(サクソ)

メッセージ ①④ 「神は信実な方」 小山英児主任牧師
②③ 「幼子のように」 平岡修治先生

賛 美 「歌いつつ歩まん」(聖歌498番) 献金
頌 栄 「父・御子・御霊の」(聖歌383番)
祝 禱 大川従道監督牧師

「よく言うておく。心を入れ替えて子どものようにならなければ、決して天の国に入ることはいできない。」(マタイ十八の三)

【大和ニュース】

☆今日は第二、第三礼拝と平岡修治先生と関真哉兄をお迎え出来て感謝です。

素敵な CD や書籍が礼拝後に販売されます。書店にてお買い求め下さい。

☆受洗おめでとうございます。佐藤兄(青年会)第四礼拝にて。

- ・ 本日、責任役員会(12:30 3階オリーブルーム)、アブラハム会(12:30 3階ロビー)、プレミアムクワイア(12:30 泉チャペル)、青年会、学生会、ヤングチャペル(中高生)。

* 今週も祈禱会を大切に！水曜夜と木曜朝、説教は森屋副牧師。(木曜:ヌイヌイ)

- ・ 土曜日は花盛り、会堂掃除(12:00)、聖歌隊(13:30 泉会堂)。古川兄の結婚式。

☆集会撮影用のカメラを買い替えなければなりません。価格600万円。お祈り下さい。

* 主日礼拝人数 ①88人(173) ②240人(181) ③282人(198) ④38人=1200人

定例祈禱会 水曜71人(123) 木曜93人(77)=364人 ※()内は YouTube のライブ人数

石の枕

これは真面目なユーモアであり、特別製の原稿である。

札幌市の村田忠良医師が勤務する病院で、長い療養生活をしているイタリア人の神父さんが、検査のあと疲れきって廊下のソファーによりかかっていた。

村田医師が「どうなさったの？」と声をかけると、神父は「天国が近づいた」と言った。「だめだめ。天国は今、満員だそうですよ」と励まして去りかけると、背中に「増築した」と言う神父の声が聞こえた。

「抱き合って肩をたたきながら、そのたくましく清冽なユーモアに泣いた」と村田医師は書いている。(秋田忠良著『老いの人間学』サンパウロ社)

私大川は、この教会に就任して56年。牧師としては、日本一の長き聖務と言えるかも。長い年月、主と愛兄弟にお仕えできたのは特権であり、特別な恵みであると思って感謝しているが、あと何年もつだろうか。56年の間で、お葬式の数、ダントツの日本一！（そんなこと自慢しなくてもよい?!）

特に今年の葬儀は16回。副牧師の助けがなければ、私が召天していたであろう。しかし、強調したいのは「死」という永遠の別れのつらさを体験したと同時に、クリスチャンの別れは、また会えるという希望をいだいての別離であることだ。葬儀の度に「また会う日までー」を賛美する。涙があっても再会の希望と夢がふくらむ。

今年は、先月実の弟が召天した。私を慕って、田舎から上京し、私と同じ高校、同じ大学へと進んだ。両親は「目はかすまず、気力は衰えず」(申命記34の7)で、牧師としての人生を全うして召天。戦後の超貧しい生活に耐えて、その使命を果たし終えた。しかし、息子として、お寿司や焼肉をご馳走したこともない。大好きなおしるこも。お互い、牧者として信徒のためなら、断食も徹夜もおしまず、休みなしの一生であった。

しかし、イエス・キリストを救い主として信じてお従いできた特権は、再会の夢を持てることである。永遠の命をいただいて、人生の最後を走れたことは、最高の幸せである。信者さんとの別れも淋しいが、必ず天国で再会できることは、天にも昇る喜びである。ハレルヤ！主よ、感謝いたします。(文責:大川)

宿題(祝大) 今週もむさぼるように聖書を読みましょう！
Aコース: I コリント10章～14章 Bコース: 詩編142編～箴言8章